

事例23

< 事例概要 >

迷入

- ① 70 歳代、慢性腎不全の患者。
- ② 血液透析導入のため、血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ BMI不明。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右大腿静脈より超音波を使用せず穿刺。カテーテル挿入時に違和感があった。逆流はスムーズでなかったがカテーテルを少し引き抜くと改善したため固定。カテーテル先端の位置を画像確認せず初回透析を施行。翌日、透析開始前の逆流は、前日と同様にカテーテルを少し引くと改善したため、透析開始。10 分後に腰痛を訴え、ショック状態となったため、透析中止。CT で腹腔内出血を認め、他医療機関へ搬送準備中に心肺停止。急変から約2 時間半後に死亡。
- ⑤ 死因は、腹腔内出血（カテーテルの上行腰静脈迷入、上行腰静脈の破綻）、死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。